

* モノクロームメゾチント体験教室

初心者
向け

モノクロームメゾチント技法を使って、
製版から刷りまでを行う、初心者向けの教室です。
1回の講習でポストカード大の作品を完成させます。

日 時：2014年5月18日(日) 17:00~20:00

※閉館後の開催となりますが、展覧会をご覧いただけます。

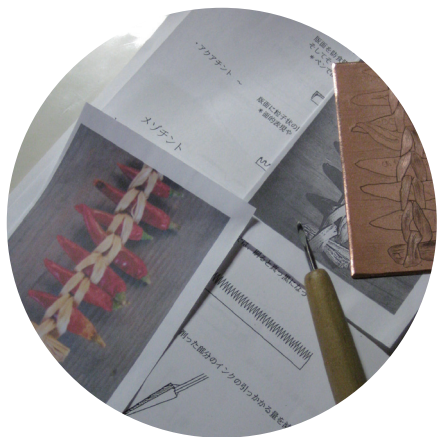
講 師：江本創(アーティスト)

会 場：ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション 1階

定 員：18名(抽選)

参加費：1800円+入館料

持ち物：下絵(サイズ12×7.5cm、モノクロ)、汚れても良い服装、エプロン。



* お申込み方法

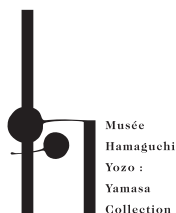
必要事項をご記入の上、往復はがきでお申込ください。5/7(水)必着。

抽選結果は返信葉書で通知します。(※切の翌日発送予定)

数名で一緒に参加をご希望の場合も1通の往復はがきでお申込みいただけます。

代表者のご連絡先、参加希望者の人数とお名前をご記入ください。

<p>郵便往復はがき</p> <p>103-0014</p> <p>往信</p> <p>東京都中央区日本橋 蛸殻町1-35-7 ミュゼ浜口陽三・ ヤマサコレクション</p>	<p>郵便往復はがき</p> <p>□□□-□□□□</p> <p>返信</p> <p>ご自分の住所 氏名</p> <p>①ご希望のコース名と開催日 ②氏名(ふりがな) ③郵便番号・住所 ④電話番号</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



南桂子展 ノスタルジア

2014年4月26日(土)~6月1日(日)

開館時間：11:00-17:00(土日祝 10:00-17:00 最終入館 16:30)

入館料：大人 600円 大学・高校生 400円 中学生以下無料

休館日：月曜日(5/5は開館)※休館日、開館時間等は都合により変更する場合がございます。

南桂子《湖畔》1976年 エッチング、サンドペーパー

Q1.メゾチントってどんな技法？

A1. 銅版画の技法のひとつ。
ビロードのような画面が特徴です。

銅の板に施した凹部分にインクをつめ、凸部分の余分なインクはふき取って強い圧力で紙に刷るのが銅版画。
メゾチント技法では、最初に版全面にぎざぎざの傷をつけ、ビロードのような黒い画面をつくります。これを「目立て」といいます。(当館の体験教室ではあらかじめ目立て加工のしてある銅板を使用します。)
明るく(白く)したい所は「スクレーパー」という道具でぎざぎざを削り、インクが溜まる量を減らします。
ぎざぎざが浅く、密度が低くなるほど明るく(白く)なり、微妙な削り加減で美しいグラデーションの表現が可能です。
えんぴつで黒くぬりつぶした画面に消しゴムで絵を描くようなイメージです。

下絵サイズ:12×7.5cm(縦横どちらでも可)

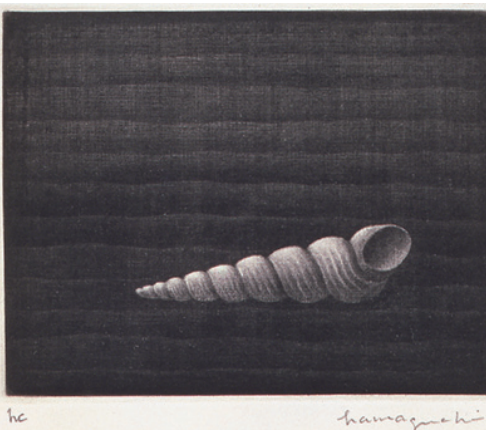
Q2.どんな下絵を用意したらいいの？



A2. 浜口陽三の作品を参考に見てみましょう。

左上:「猫」1937年

ドライポイント技法による作品。(今回の教室ではこの技法は使いません)
銅の板に先のとがった針のような道具で引っ掻き、その傷にインクを詰めてから余分なインクをふき取り、紙に刷りあげます。引っかいた所が黒くなるので、「線」で描くのに向いた技法です。



左下:「巻貝」1959年

メゾチント技法による作品。(今回の教室で使う技法です)

暗い背景のから白い巻貝が浮かびあがります。

よくみると、線ではなく、黒の「濃淡」で描かれています。

貝のまるみを帯びた形、影、背景のグラデーションは、メゾチントの得意とする表現です。どちらかというと「線」で描く表現には向きません。

下絵を描くときは 白・・・グレー・・・黒の、色の濃淡を意識して、えんぴつなどで塗り分けてみてください。